

私が見た南京

元TBSアナウンサー
鈴木史朗

昭和十三年に京都生まれ、一歳のとき中国に渡る。北京・天津で生活をし、五歳のとき南京にも行っている。小学校二年生のとき敗戦となり、引き揚げる。昭和三十七年に早稲田大学法学部を卒業、TBSに入社、アナウンス部、報道局などを経て、「さんまのスーパーからくりTV」のなかの「ご長寿早押しクイズ」は人気を博す。

これまで「WILL」「言論テレビ」「正論」などで南京事件について見解を発表している。



妹二人と近所の中国人とともに。日本人租界である天津市淡路街の住宅街で。妹たちが着ている中国服は中国人の子の母親が作ってくれたもの。



楊車に乗って遊んでいるところ。天津市須磨街にある自宅前で。中国人の楊車夫が乗せて遊ばせてくれた。



南京戦の貴重な体験談を388回の収録でいただいた「ご長寿早押しクイズ」。

南京市についての主な発言

永野茂門法務大臣

羽田内閣の永野茂門法務大臣は平成六年五月四日の毎日新聞との会見で「南京大虐殺など、私はでっち上げだと思う」「直後に私は南京に行っている」と述べました。

さっそく社会党は国会で責任を追及するとし、中国の江沢民国家主席や台湾外交部は批判しました。六日に永野法務大臣は発言を全面撤回し、進退を首相に一任と述べ、七日、羽田首相は辞任を受け入れました。就任から十日目のことでした。

永野茂門は昭和十六年七月に士官学校を卒業、漢

口に赴任します。その途中、南京に寄りました。翌年、通信学校に入るため日本に戻ります。このときも南京に寄りました。永野茂門はこう語っています。

「そのときの南京はまったく平穏で、日本軍紀の乱れを耳にしたこともありませんでした。戦後になって東京裁判で大虐殺があったとされましたが、もしそうだったら南京の町も市民もあれほど落ち着いていたはずがありません。日本軍についても、南京に攻め入った部隊だけが乱れていたということは考えられません。南京大虐殺はでっち上げです」

河村たかし名古屋市長

河村たかし市長は平成二十一年九月十五日の名古屋市議会で南京事件について「いろいろ調べたうえで、今まで言われてきたことについては深い疑問がある」と述べました。

平成二十四年二月二十日、名古屋市を訪れた中国共産党の南京市委員会幹部に「通常の戦闘行為はあったが、南京での事件はなかったのではないか」「事実を明らかにするためにも、討論会を開いてほしい」と述べました。また「南京で終戦を迎えた父は、現地の人からラーメンの作り方を教わるなど

のもてなしを受けた。本当に事件があったなら、日本人にやさしくできるものか、理解できない」と考えを示しました。

この発言に対して中国外務省は「南京大虐殺には動かぬ証拠がある」と批判、南京市は名古屋市との交流を止めるとし、南京市での柔道式典を中止し、公務員の名古屋への渡航禁止を決めました。しかし討論会が開かれることはありませんでした。やがて南京市や中国外務省からの抗議はとだえ、いまはもとに戻っています。

南京にいた日本人は南京事件を知らなかった

南京攻略戦が昭和十二年十二月に行われたあと、南京には警備のため第十六師団（京都）が駐留しました。翌年一月末、第十六師団は第三師団（名古屋）と交替しました。七月になると上海にあった中支那派遣軍司令部が南京に移ってきて、それとともに邦人が南京に出入りするようになりました。翌十四年九月、支那派遣軍総司令部が置かれ、さらに多くの邦人が出入りするようになりました。昭和十五年三月、南京に汪兆銘政権が樹立され、軍人だけでなく外交関係者なども多数行き来するようになりました。昭和二十年八月に敗戦となりました。しばらくのあいだ日本軍と邦人は南京城内にとどまっていたが、十一月に日本軍は中華門外に集結し、邦人は挾江門外に移って生活を始めました。集結した日本軍は十三万余、邦人は一万七千余に達します。邦人

は城外に移ってもそれまでと同じように城内とのあいだを行き来していました。

翌年二月、第四十師団（善通寺）が南京市を流る河の掃除を買って出ました。千年ものあいだ掃除されていなかった河の掃除は四月まで続けられ、南京は見違えるほど綺麗になり、日本軍は市民に感謝されました。

南京戦から敗戦までの八年ものあいだ、多くの日本人が南京にいましたが、南京虐殺が話題となったことはなく、敗戦となってからも、南京虐殺を持ち出されて責められることはありませんでした。昭和二十一年の年が明けると引き揚げが始まり、六月まで全員が引き揚げました。

このような事実からしても南京事件はなかったことが明らかです。